



錠剤を潰すことってホントに大丈夫？ Part2

以前、NSTニュースで「徐放性（≒長く効く工夫がされている）の血圧の薬を砕いて投与すると、血中濃度が通常以上に上昇し、過度な降圧となって危険」という記事を紹介しました。今回はその続編で錠剤を「つぶす」ことのリスクを考えてみましょう。

1. 薬を粉砕して投与したことによる事故事例



2018年7月6日の薬事日報によると、錠剤を粉砕して投与した事故事例が3例報告されています。

2例は上記の徐放性降圧剤であり、処方頻度も高いニフェジピンCR錠での血圧低下、1例は麻薬であるオキシコドン徐放錠での意識レベル低下、呼吸機能の悪化です。

2. その他の錠剤を自己判断で粉砕することのリスク

カモスタットメシル酸塩錠



カロナール錠



薬効としては大丈夫ですが、強い苦味が生じるため、経口投与の場合、服用時の苦痛につながります。

オメプラゾール錠



この薬は胃で溶けずに腸で解ける工夫がされている。粉砕により、胃の中で薬が酸性下にさらされて効果が失われます。

薬の自己判断での粉砕は絶対にダメです！！

- ①錠剤には粉砕できないものがあることを覚えておきましょう。
- ②そのような薬剤を粉砕すると、危険であったり薬効が失われたり治療上の不利益が生じる場合があります。
- ③錠剤の服薬困難があったら薬剤師に相談を！粉砕の可否を調べて剤形の変更や代替薬での対応ができます。

薬剤部 長谷川 裕矢

お知らせ

2019年度院内NST研修会が始まります！（全10回）

毎月第2水曜日17:30～

第1回 6月12日(水):内科 山本先生

第2回 7月10日(水):整形外科 福田先生

どの職種でも参加可能です。栄養に興味のある方ならどなたでもご参加下さい！

